

CASBEE[®] さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)シモハナ物流岩槻センター新	階数	地上3F
建設地	さいたま市岩槻区大字柏崎字谷際1	構造	S造
用途地域	用途地域:指定なし、防火地域:指定	平均居住人員	50人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年6月 予定	評価の実施日	2018年12月12日
敷地面積	19,443 m ²	作成者	浅沼組 大平・坂野
建築面積	9,911 m ²	確認日	2018年12月12日
延床面積	29,928 m ²	確認者	長谷川



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
本施設は冷凍倉庫であり一般の倉庫とは違い 断熱処理等に配慮を行い作業者が円滑な作業ができるよう工夫している。 緑化についても地表面にて十分な緑化を行い、加えて壁面緑化、屋上緑化、駐車場緑化を計画している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
倉庫エリア: 冷凍倉庫内においては適切な断熱処理を行っている。 事務所エリア: 各居室について界壁を適切に配置して騒音等に配慮している。	リフレッシュスペースとして十分な空間の休憩所を計画している。	敷地面積に対して20.14%の緑化を確保している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
節水型の便器を採用している。	下層路盤に再生砕石を使用している。	施設利用者に適切な量の駐車場・駐輪場スペースを確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
(仮称)シモハナ物流岩槻センター新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.1.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.9	
Q1 室内環境					0.30	-	-	2.8	
1 音環境				3.0	0.15	-	-	3.0	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-		
1.3 吸音				3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				2.0	0.35	-	-	2.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	3.0	-		
2 外皮性能				3.0	0.25	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				3.0	0.25	-	-	3.0	
3.1 昼光利用				3.6	0.30	-	-		
1 昼光率	柱光率 2.25%(会議室) 3.08%(事務所) 3.45%(休憩室)			4.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口				-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御				3.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度				2.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				3.6	0.25	-	-	3.6	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質	建築基準法を満たしている。ビニルクロス F☆☆☆☆等			4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量	建築基準法を満たしている。			4.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性				2.5	0.40	-	-	2.5	
1.1 機能性・使いやすさ				1.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				1.0	0.33	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33	3.0	-		
3 バリアフリー計画				1.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-		
2 リフレッシュスペース	作業員に対して十分な大きさの休憩室を確保している。			5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				3.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計	室内において段差の少ない計画としている。			4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保	廃棄物・リサイクル・粗大ごみ置き場として十分な場所を確保している。			3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	更新必要間隔20年以上で計画している。			5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.2	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				1.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高は倉庫部分で決定するので十分な高さを確保している。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.116としている。	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		フローアごとの荷重を検討しゆとりのある荷重としている。	3.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		敷地内緑化を適切な本数設置している。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.681としている。	5.0	0.01	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.12	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63	4.7	0.62	-	-	4.7
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		下層路盤に再生砕石(RC-40)を使用している。	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装材と設備が錯綜せず、容易にそれぞれを取り外すことが出来る。	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		CO2排出率 3.2としている。	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内において自動車置き場60台、自転車置き場59台設置している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲との調和を検討し、著しく過剰な照明にならない様に計画を行っている。	1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	